

作成日 2026/06/09

改訂日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 酸化セリウム研磨剤
会社名 株式会社MonotaRO
所在地 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階
担当者名 商品お問合せ窓口
電話番号 0120-443-509
FAX番号 0120-289-888
緊急連絡先 所在地と同じ
整理番号 M260622
推奨用途 板ガラス研磨、レンズ消色、ブラウン管研磨、光学ガラス研磨、自動車排気ガス触媒
使用上の制限 推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家/化学物質専門家等の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約 化学品のGHS分類

健康有害性 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分2(肺)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(肺)
上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険
危険有害性情報 H371 肺の障害のおそれ
H372 長年にわたる、又は反復ばく露による肺の障害

注意書き

安全対策 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)

応急措置 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。(P308+P311)
気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。(P314)

保管 施錠して保管すること。(P405)
廃棄 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 単一化合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
酸化セリウム(IV)	100.0%	CeO2	(1)-627	既存	1306-38-3

4. 応急措置

吸入した場合 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合 水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合 口をすすぐこと。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状 吸入: データなし
皮膚: データなし
眼: データなし
経口摂取: データなし

最も重要な兆候及び症状 データなし
応急措置をする者の保護 データなし
医師に対する特別注意事項 データなし

5. 火災時の措置

消火剤
使ってはならない消火剤
火災時の特有の危険有害性
水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
データなし。
不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置
適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
密閉された場所に立入る前に換気する。
全ての着火源を取り除く。

環境に対する注意事項
環境中に放出してはならない。

回収・中和
漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材
水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。

二次災害の防止策
プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
技術的対策 特別に技術的対策は必要としない。
局所排気・全体換気 『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱注意事項 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

保管
接触回避 データなし。
技術的対策 特別に技術的対策は必要としない。
保管条件 施錠して保管すること。
容器包装材料 データなし。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
酸化セリウム(IV)	未設定	未設定	未設定

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値/天井値
酸化セリウム(IV)	未設定	未設定

設備対策
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全
ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局
局

保護具
適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具 適切な保護手袋を着用すること。
眼、顔面の保護具 適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具 適切な保護衣を着用すること。

衛生対策
取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態
その他

形状		粉末
色		白色、又はレンガ色
臭い		データなし
融点／凝固点		2480 °C : Lide(90th, 2009)
沸点又は初留点及び沸点 範囲		データなし
可燃性		データなし
爆発下限界及び爆発上限 下限 界／可燃限界		データなし
	上限	データなし
引火点		データなし
自然発火点		データなし
分解温度		データなし
pH		データなし
動粘性率		データなし
溶解度		不溶 : 環境省リスク評価 溶剤に不溶 : IUCLID (2000)
n-オクタノール／水分配 係数		データなし
蒸気圧		データなし
密度及び／又は相対密度		データなし
相対ガス密度		比重(密度):データなし (7.216 g/cm ³ : Lide(90th, 2009))
粒子特性		データなし
10. 安定性及び反応性		
反応性		データなし
化学的安定性		法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性		データなし
避けるべき条件		データなし
混触危険物質		データなし
危険有害な分解生成物		データなし
11. 有害性情報		
急性毒性	経口	ラットLD50値 ; > 5000 mg/kg bw (IUCLID (2000)) に基づき区分外とした。
	経皮	ラットに2000 mg/kg bwの投与で死亡がなく、LD50値 ; > 2000mg/kg bw (IUCLID (2000)) に基づき区分外とした。
	吸入	(気体) GHSの定義による固体である。 (蒸気) データなし。 (粉じん・ミスト) ラットLC50値 ; > 5.05 mg/L (OECD TG403) (IUCLID (2000)) に基づき、JIS分類基準の区分外(国連GHS分類区分5に相当)とした。なお、粒径3ミクロン以下が85.4%を占める (IUCLID (2000)) との記述から粉塵/ミストの基準値を適用した。
皮膚腐食性／皮膚刺激性		ウサギに試験物質0.5gを適用した試験 (OECD TG404) において刺激性なし (not irritating)、およびウサギを用いた別の試験で皮膚一次刺激指数は0.0で刺激性なし (not irritating) の結果 (何れもIUCLID (2000)) に基づき区分外とした。
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性		ウサギの眼に試験物質0.1gを適用した試験 (OECD TG405) において、刺激性なし (not irritating) (IUCLID (2000))、およびウサギを用いた別の試験で軽微な刺激性 (slightly irritating) (IUCLID (2000)) の結果に基づき区分外とした。
呼吸器感作性		データなし。
皮膚感作性		モルモットを用いたマキシマイゼーション試験 (OECD TG406) で惹起後に感作性反応は認められず、感作性なし (Not sensitizing.) の結果 (IUCLID (2000)) であったが、List 2 のデータのため「分類できない」とした。
生殖細胞変異原性		マウスの経口投与による骨髄細胞を用いた小核試験 (OECD TG474) (体細胞in vivo変異原性試験) は陰性結果 (IUCLID (2000)) との報告に基づき、区分外とした。なお、in vitro試験では、エームテストの結果は陰性 (環境省リスク評価 第8巻 (2010)) と報告されている。

発がん性
データなし。なお、US EPAは発がん性のリスク評価ガイドラインの下では、ヒトでの発がんの可能性を評価するにはデータが不十分である(IRIS(2009)Tox Review)としている。

生殖毒性
特定標的臓器毒性(単回ばく露)
データなし。
ラットに4.12~5.98 mg/Lの濃度(粉塵)を4時間吸入ばく露した試験(OECD TG 433; GLP)において、2/10匹に努力性呼吸と被毛の乱れ、全例の肺にびまん性のやや白い病巣を伴った不完全な虚脱が見られたとの所見(IUCLID(2000))に基づき、ばく露濃度はほぼガイダンス値範囲区分2の上限に相当していることから、区分2(肺)とした。なお、経口投与試験では、ラットに5000 mg/kg bwの投与で死亡はなく、正常な体重増加を示し、剖検でも異常は見られていない(IUCLID(2000))。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)
セリウム等の希土類元素ヒュームのばく露を長年に亘り受けた労働者の肺では希土類元素の蓄積が見られ、肉芽腫、気腫、間質の線維化の肺病変と肺活量の低下が報告されている(環境省リスク評価 第8巻(2010))。また、酸化セリウム研磨剤にばく露後少なくとも15年以上経過して、呼吸困難のため来院した58歳の男性に軽度の胸膜肥厚と肺閉塞が見られ、病理検査の結果、慢性肥厚性胸膜炎と診断された事例(環境省リスク評価 第8巻(2010))、35年間光学レンズの研磨作業に従事し、離職後13年経過してから酸化セリウムのばく露に関連する希土類元素じん肺が判明した68歳男性の事例(PATY(5th, 2001))など、希土類元素の肺における長期間の残留を示すものであり、酸化セリウムのばく露が関与しているとされる有害事象発生の報告は多い。一方、ラットに粉塵ばく露による13週間反復吸入試験において、剖検では5 mg/m³以上のほぼ半数で縦隔膜リンパ節の拡張、退色、全例で気管支リンパ節の変化、51mg/m³以上の全動物で肺の退色、組織検査では、5 mg/m³以上の雌雄の気管支リンパ節でリンパ組織増生、色素沈着、肺で色素沈着、51 mg/m³以上の雌雄の肺で肺胞上皮の過形成、咽頭で化生及び色素沈着がそれぞれ認められ(環境省リスク評価 第8巻(2010))、影響はガイダンス値区分1の範囲を含む。以上のヒトおよび動物の知見に基づき区分1(肺)とした。

誤えん有害性
データなし。

12. 環境影響情報
水生環境有害性 短期(急性)
データなし。

水生環境有害性 長期(慢性)
データなし。

生態毒性
データなし

残留性・分解性
データなし

生体蓄積性
データなし

土壤中の移動性
データなし

オゾン層への有害性
当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため。

13. 廃棄上の注意
残余廃棄物
廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに

汚染容器及び包装
容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切に処分すること。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意
該当の有無は製品によっても異なる場合がある。法規に則った試験の情報に基づく修正の必要がある。

国連番号	特定できず	
国際規制	海上規制情報	特定できず
	航空規制情報	特定できず
	陸上規制情報	特定できず

国内規制 特別安全対策	海上規制情報 航空規制情報	特定できず 特定できず 移送時にイエローカードの保持が必要。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
緊急時応急措置指針番号		なし
15. 適用法令 労働安全衛生法		名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2)
労働安全衛生法(表示・通知対象物質、がん原性物質)(令和9年施行分)		<p>酸化セリウム(IV) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)</p> <p>酸化セリウム(IV)(安衛則別表第2の番号:621)(99.9%以上)(営業秘密)</p> <p>名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2)</p>
毒物及び劇物取締法 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)		<p>酸化セリウム(IV) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)</p> <p>酸化セリウム(IV)(安衛則別表第2の番号:621)(99.9%以上)(営業秘密)</p> <p>非該当</p> <p>第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)</p> <p>セリウム及びその化合物(管理番号:665)(100%)</p>
消防法		非危険物
16. その他の情報 連絡先 参考文献		<p>項目1に記載 製造元メーカー提供資料 NITE GHS分類結果一覧 JIS Z 7252 GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z 7253 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)</p>
その他		<p>経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス 化学品ドキュメント管理プラットフォーム(CDPF) SDS作成システム「ChemValue.AUTHOR」により作成</p> <p>記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。あくまでも参考情報として提供するものであります。</p> <p>また、注意事項は通常の実施を前提としたものであるため、特殊な取扱いをする場合は、用途・用法に適した安全策を実施の上、ご利用ください。この情報は、新しい情報を入手した場合、予告なしに改訂されることがあります。</p>